

各位

2025年3月19日
会社名 のむら産業株式会社
代表者名 代表取締役社長 清川悦男
(コード番号：7131 東証スタンダード)
問合せ先 常務取締役 西澤賢治
(TEL 042-497-6191)

2025年10月期 第1四半期 決算補足資料

この質疑応答集は、2025年3月14日に発表いたしました2025年10月期 第1四半期決算について、当社で想定していました質問および発表以降に株主、投資家などの方々から頂いたお問い合わせ、感想についてその内容と回答について、以下の通りお知らせいたします。なお、本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

Q1 | 第1四半期において前年同期比で増収・増益になった要因を教えてください。

A | 昨年からのコメ不足による需給バランスの崩れは改善傾向ではありますが、資材供給の遅れを懸念した受注が増加し、売上は堅調に推移しました。また、原材料価格高騰に対して適切に価格転嫁をおこなったことも、増収・増益の要因となっております。

Q2 | 第1四半期おいての通期予想に対しての進捗率についてはどのようにお考えでしょうか。

A | 第1四半期時点で通期予想に対しての売上高進捗率が23.5%、営業利益の進捗率が24.4%となり、ほぼ計画通りに推移していると考えております。引き続き、通期予想達成を目指してまいります。

Q3 | 米の価格高騰が続いていますが、御社に対して影響はあるのでしょうか？

A | コメの価格が高騰し続けるなど、消費者の「コメ離れ」が起きた場合、包装資材の売上が下がる可能性はありますが、反対にコメの価格高騰により、顧客の利益が確保され、設備関係などへの投資の意欲が高まる可能性も考えられます。

当社としましては、これまでの経験からも、コメの価格高騰がコメの需要減に直結するかは判断が難しいところです。

なお、コメの消費動向などのリスクについては、有価証券報告書の【「事業のリスク等」(1)米の生産・消費動向について】に記載しております通り、当該リスクへの対応に努めてまいります。

Q4 | 今期施策として「海外向け売上の拡大」をあげていましたが、その進捗状況を教えてください。

A | 当社では、中期経営計画としまして、コメを主食としている東南アジア諸国への販路拡大を目指しており、タイなどの東南アジアで調査活動なども実施しております。また、コロナ禍で中断していた商談も再開し、タイ向けに当社の米の包装機械を納品することができました。引き続き、タイを中心とした東南アジアへの販路拡大を目指し活動を進めてまいります。

Q5 | 物流梱包事業が前年同期比で減収・減益となった理由を教えてください。

A | 当社顧客の大手通販会社が、梱包資材を環境に配慮した低コストの梱包資材にシフトする方針とした影響で、前年同期比で減収・減益となりました。こちらは既に通期予想に織り込み済みの内容となります。今期は一時的に減収にはなりますが、脱プラおよび紙資材への関心の高まりから新規契約は増加中ですので、来期以降の増収・増益を目指して引き続き営業を強化してまいります。

以上